

科目名 Course Name	日本国憲法 Constitutional Law of Japan				ナンバリング No.	A2-016	
年次	1 年	期別	後期	単位数	2	授業形態	講義
担当者氏名	藤田 蘭丸						
連絡方法	C-Learning で対応。教室、非常勤講師室						
必修／選択	選択						
関連 DP	DP1, DP2, DP4						
授業の概要と 到達目標	【授業の概要】 本科目は、日本国憲法とこれにかかわる事項について講義を行う。高校までに学修した内容と大学で学修する内容を比較しながら、社会人としてさまざまな問題を考えられるようにする。 【到達目標】 1. 憲法の内容について論じることができるようになる。 2. 国の仕組みやあり方について論じることができるようになる。 3. 社会におけるさまざまな問題について憲法という観点から論じることができるようになる。						
授業の方法	講義形式で行うが、適宜パワーポイントやレジュメなどの補助資料を使用する予定である。毎回リアクションペーパーを配布するので、質問や要望などがあれば提出をすること。						
学習成果	L01						
	L02	憲法と実社会での関係性を理解して、社会で生きることの認識を得る。					
	L03						
	L04	現代社会では世界中で重要とされている人権の概念を把握し、共通的な認識を持つ。					
課題に対する フィードバック	講義のなかで対応する。						
教科書／ 参考図書	【教科書】 駒村圭吾(編)『プレステップ憲法[第4版]』(弘文堂、2024 年) ISBN: 978-4335001581 その他参考文献については授業時に随時提示する。						
履修上の留意点 やルール等	授業は、憲法をめぐる実際の問題や、憲法に対する問題意識を深めるといった点を重視して行う。したがって、教科書全ての章や内容をまんべんなく取り上げる事は避け、重点をおいた項目、補足しておくべき項目について取り扱いたい。受講者は、講義と教科書の双方を活用して、憲法に対する理解を深めてほしい。毎回の講義に際しては、十分な自己学習と真剣に取り組むこと姿勢が強く求められる。授業で取り上げるテーマ、事例は受講者の関心や社会情勢等に合わせて柔軟に対応する予定であるため、授業計画を変更する場合がある。なお、成績評価の対象となるためには 3 分の 2 以上の出席を必要とする。 事前・事後学習に費やすべき時間の目安は各回 180 分とする。						
担当教員の実務 経験							

成績評価の方法と基準						
評価の領域	評価基準	学習成果の割合				
		L01	L02	L03	L04	
授業参加態度	毎回の授業時の提出物の内容や提出状況から判断する。		15			15
レポート／作品	授業内容がふまえられているか、自分なりの学習成果が見られるかどうか等で評価を行う。		30			40
発表						
小テスト						
試験						
その他						
合 計			45			55

回数		授業計画
1	授業内容	授業案内
	事前・事後学習	憲法にかかわる高校までの知識を復習・整理する。
2	授業内容	憲法の基礎
	事前・事後学習	教科書の 8～19 頁を読む。
3	授業内容	選挙と参政権
	事前・事後学習	教科書の 20～29 頁を読む。
4	授業内容	国会の役割
	事前・事後学習	教科書の 30～39 頁を読む。
5	授業内容	行政権と議院内閣制
	事前・事後学習	教科書の 40～49 頁を読む。
6	授業内容	司法権と裁判制度
	事前・事後学習	教科書の 50～59 頁を読む。
7	授業内容	象徴天皇
	事前・事後学習	教科書の 60～69 頁を読む。
8	授業内容	戦争放棄
	事前・事後学習	教科書の 70～81 頁を読む。
9	授業内容	人権の理念・歴史・特質
	事前・事後学習	教科書の 82～91 頁を読む。
10	授業内容	人権総論
	事前・事後学習	教科書の 92～101 頁を読む。
11	授業内容	信教の自由と政教分離
	事前・事後学習	教科書の 102～111 頁を読む。
12	授業内容	表現の自由
	事前・事後学習	教科書の 112～123 頁を読む。
13	授業内容	経済的自由
	事前・事後学習	教科書の 124～133 頁を読む。
14	授業内容	社会権
	事前・事後学習	教科書の 144～153 頁を読む。
15	授業内容	まとめと補足
	事前・事後学習	これまでの講義内容をまとめ、理解が不足している点を整理する。